

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 東京学芸大学附属大泉小学校
(※正式名称を記載)

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒178-0063

東京都練馬区東大泉 5-22-1

E-mail kikunoko@u-gakugei.ac.jp

Website www.es.oizumi.u-gakugei.ac.jp/

児童生徒数 男子 285 名 女子 291 名 合計 576 名

児童・生徒の年齢 6 歳～12 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

(1) 活動の概要

本校は、「グローバル社会に生きる力の育成」を研究テーマとして、現代の予測困難な変化が伴う社会の様相が加速化される中で、「自立」と「共生」に向けて豊かな未来を切り拓いて生きることができる資質・能力を育成するために、現代的な諸課題を探究的に学ぶ新教科「探究科」の創設と実践を中心に本年の研究に取り組んできた。また、既に 20 年以上「探究」「表現」「交流」を学習活動の柱とした「菊の子学習」の実践を展開し、国際理解、異文化間理解、また多文化共生、生物多様性、環境などの分野での児童の課題解決学習を継続している。本校でのこれらの取り組みは ESD がめざす、「持続可能な社会作りの担い手を育む教育」と一致するものにとらえている。

具体的には、①国際理解に係わる学習、②防災・気候変動に係わる学習、③地域理解に係わる学習を中心に行った。

① 国際理解に係わる学習

・東京韓国学校との交流学習

本校は 10 年以上にわたり東京韓国学校との年間 2 回の交流授業間 2 回の交流授業を行っている。1 回は韓国学校へ出向き、遊び、文化体験をする交流、韓国の遊び、文化（衣装などを着る）、民族舞踊を見せてもらう等の活動を行っている。2 回目は本校に招待。「日本の遊び、日本の食べ物紹介、餅つき大会」等を行っている。交流に先立って、探究学習の一環として、「韓国ってどんな国？」と児童に投げかけ、児童が韓国の文化や生活などについて自分が興味関心を持ったことについての調べ学習を行っている。そこで調べた

ことを基にして韓国学校を訪問し、韓国の文化や遊び、韓国学校児童の学習の様子などに触れ、自分で調べた事を体験したり、日本との違いを質問したりする。次に本校に招いて、日本の文化や遊び、習慣などどんな事を伝えたらよいかを話し合い、準備をして、本校での交流活動を行っている。

・国際学級における総合カリキュラム

本校では、3年生以上に海外生活経験児童で構成する国際学級がある。主に日本の学校への早期適応を大きな目的とし、少人数で日本語や漢字の指導を行ったり、日本の伝統文化に触れたり、自分たちが経験した海外のことをプレゼンテーションしたりする総合学習を行ったりしている。一部の教科や学年の行事は一般学級の児童と共に活動をし、互いに葛藤を乗り越えながら異なる文化の経験を交流し合う場を保障している。

②防災・気候変動に係わる学習

・「探究科」の新単元を開発し、実践を行った。(別紙資料添付)

・4年「集中豪雨、きみならどうする？」

「災害の仕組みを理解したり、自分の命や暮らしを守るために災害へそなえたりすることで、地域社会の一員として生活する」ことを目当てとし、練馬区内の関連機関が内水氾濫に備えて機能していることや、身近な場所での内水氾濫を防ぐための工夫や仕組みを体験的に調べていく。その上で、自分たちから行動、発信できることを考え、実践していった。

・5年「防災キッズ、菊の子チャレンジ隊」

理科で気候変動や台風の起こる仕組み、また流れる水の働き、社会科で地域の防災行政の仕組み、森林保全等災害に備える取り組み等を学習し、そのことを基に、「練馬区周辺は台風に対して安全なまちなのか」という共通課題について、グループごとにテーマを決めて、実験、調査したことをもとに情報報告会を行った。

③地域理解に係わる学習(環境学習・世界遺産や地域の文化財等に関する学習を含む)

・移動教室におけるフィールド学習(フリータイム学習)

移動教室で行く地域(富浦・箱根・日光)の歴史、文化、自然環境、特産物などについて、自分が興味をもったテーマから課題を設定し体験を通して追究活動を行い、問題解決や学びを深めていく活動。現地では、専門家を指導者として依頼し、グループごとに体験活動を行い、戻ってから成果の発表会を行った。

・スポットガイド日光

6年生移動教室で出かける日光東照宮(世界遺産)についてグループごとに調べ、現地で飛び込み的に観光客(外国人を含む)に声をかけ東照宮についてのガイド活動を行う活動。英語活動で事前に使える英語を学習し、外国人観光客にも積極的に声をかけるようにする。また、国際学級児童が海外で身に付けた外国語を使って、活躍する場にもなっている。



① 韓国学校との交流



③ 日光フリータイム学習



③ スポットガイド日光



② 防災キッズ菊の子チャレンジ隊

(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(文部科学省開発研究一年次 新教科「探究科」)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

29年度より開発を進めている「探究科」は「地域共有」「社会的機能」「個と社会の背景」「自分・人間関係」「自然界の仕組みと科学」「創造・表現」の6つの領域で構成し、1年～6年までの系統性を生み出すことまで視座に入れて単元開発・実践を進めている。このプログラムはESDの基本的な考え方にある8つの学習の内容と重なるものであると捉えている。探究科の目標として次のように定めている。

・社会的事象や自然の事物・現象、および自己の生活に関わりのある具体的な体験活動から生まれる探究的な学習を通して、国際的資質・能力を育成することを目指す。

尚、「探究科」では社会科・理科・生活科の内容を統合し、探究科の時間に充てるとともに、総合的な時間の時数についても「探究科」に充てている。また、児童に自己調整を促すルーブリックを示し、自己評価活動の指導も同時に開発し、推進している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項1-4に対応

既に定着している「菊の子学習」（総合的な学習の時間、生活科）では、毎年学年で実践した事の中から、前年度と変更した点や研究ベースで検討した方がいいことについて、年度末に申し送り事項として全員で共通理解し、次年度の学年カリキュラムの中で実践、修正を行っている。

新教科「探究科」については、研究推進委員会を中心に、カリキュラム案を作成し、年間2～3実践の記録を残し、校内研究会での検討、講師からの指導、全国公開研究発表会の実施等を通して、外部からの評価を受けて次年度につなげた。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

校内においては、児童、教員、保護者を対象に、「探究科」の実践についての質問紙調査を行った。児童はおおむね探究科の学習が楽しいという回答が95%以上であった。それ以外にも「探究科の学習は何かの役に立つ」「探究科で学んだことを家庭での生活に生かそうとしている」という項目についての肯定率が90%を超えていた。また保護者の評価でも「探究科の学習は必要である」という項目についての肯定率は90%を超えていた。一方教師においては29年度は実践数も少なかったこともあり、「探究科の学習が教育課程の中で重要な位置づけとなっている」という項目について肯定率は70%に留まっている。児童の資質・能力の高まりについてもおおむね同様の結果となっている。外部評価としては運営指導委員会の先生方を招き、研究授業参観、協議会、また研究発表会での指導を受けた。児童が取り組む学習のテーマとしては、例えば「防災」といった複合されたトピックが教科バラバラではなく、教科の枠を超えて一体化して学ぶことのできる効果について評価を受けた。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

活動全体の発信方法としては、平成30年1月27日に公開研究発表会を行い、新教科「探究科」の理念やカリキュラム、授業実践を発表した。当日は全国より500名を超える参会者を得て、各方面からのご意見をいただいた。ESDという名前での発表ではなかったが、参観者の中からは、ESDの内容に通じるものがあるというご意見もいただくことができた。本校の活動内容とESDとの共通点を理解していただくための発信の工夫が必要であることを実感した。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

東京学芸大学次世代教育推進機構と共同研究を行い、探究科の単元における自己評価活動の検討を進めた。評価観点に基づいて作成したルーブリック及び自己評価カードの記録から、児童が資質・能力を獲得していく場面を分析した。探究的な学習の評価活動については、まだ研究途上であるが、本年度の研究では児童が探究的な学習を通して、学習内容を自分事として捉え、自己の生活に関わる便益についての意識が高まっている様子や、社会的な価値に対する意識が高まっていく様子を見取ることができた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）
※チェック事項 2-4 に対応

現在、海外子女教育振興財団が推進する研究プロジェクト「AG5」のテーマの1つである「日本人学校における高度グローバル人材の基礎的資質形成のためのプログラム開発」に参加し、香港日本人学校との研究レベルでの交流をスタートさせている。現在は教員同士の交流が中心で有り、本校で開発中の「探究科」や国際バカロレアが進めているPYPプログラムの内容と、新学習指導要領の内容が融合する教育課程の在り方について研究を積み重ねている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

本校のカリキュラムに定着しているフリータイム学習では、地域の自然・文化・伝統などについて児童が各自テーマを設定して学習を積み重ねているが、3年～6年と積み重ねる中で、始めは自分の興味・関心だけからスタートしていた学習が、様々な地域を通してその地域の特色や地域が抱える課題などを捉える力につながっていった。更にそのことは「探究科」の学習の中で、「防災」や「水」をテーマに学習を進めた際に、児童の中で「このことは前に富浦で学習したこのところと同じだね」などと、学習したことを自分の中でつなげることができる姿につながった。これは多様なテーマを学習する中で培われる汎用的な学力の高まりにつながるものと捉えている。

(3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

・菊の子学習実践

- 4年生 富浦フリータイム学習(4~7月)
- 5年生 箱根フリータイム学習(4~7月)
- 6年生 日光フリータイム学習(4~7月)
- 3年生 大泉フリータイム学習(9~12月)
- 2年生 東京韓国学校との交流学習(12月~1月)

国際学級 ゆりランドで伝えよう(12月)

・探究科

- 4年探究科新単元「地域の中で生きるということ」(6~7月)
(富浦フリータイム学習をベースに)
- 2年探究科新単元「自分の成長に気づき自分を見つめ直そう」
(1年生との交流学習をベースに)(5~6月)

9月~12月に新単元4つ実践予定。

- ・研究発表会 平成31年1月26日(土) 開催予定
文部科学省研究開発指定(2年次)
「新教科 探究科の創設」(仮)